

沿 革

(1) 設立の趣旨

明治39年1月23日県種畜場として、大分郡西大分新川に創設され、オーストラリア産雌馬28頭及びデボン種の種雄牛2頭を飼育、同年8月20日現在地に仮厩舎を建設移転した。

戦前は主として馬と和牛を対象としてその改良繁殖を図り、大分県産牛馬改良の拠点となってきた。また、昭和20年以来、乳牛の飼養繁殖をはじめ、緬羊、豚、鶏等の中小家畜の飼養も行ってきたが、昭和43年以降、馬、豚、鶏の飼養を廃止し、肉用牛、乳牛及び草地に関する試験研究、精液譲渡及び畜産技術の教育研修を中核として業務を実施してきた。

昭和43年度に本館を新築、昭和44年4月1日から大分県畜産試験場に組織機構を改組し、研究体制の整備を行い、同年に農林省農林水産技術会議から中核試験場の指定を受けた。昭和63年4月1日から農業技術センター畜産部の酪農科及び飼料科を本場に整備統合した。なお、飼料作物試験圃を本場の試験圃として農業技術センター(三重)内に残した。

平成8年度に創立90周年を迎えるにあたり、その記念事業として生産現場と消費者の交流の拠点となることを目指し、一般県民に広く開放するため、用地の一面を「ふれあい牧場」として整備し、平成9年4月27日からオープンした。

平成10年4月1日から畜産試験場の機構改革と併せ農業技術センター畜産部を畜産試験場中小家畜部と改称し統合した。

平成17年4月1日から農林水産研究センター畜産試験場に組織改編した。

平成22年4月1日から農林水産研究指導センター畜産研究部に組織改編した。

平成24年3月には、国内で口蹄疫などの家畜伝染病が発生した際に種雄牛の殺処分リスクを回避するため、隔離飼育を目的とした閉鎖型の新種雄牛舎が完成した。

平成25年4月1日に2担当4チームから2担当5チームに組織改編した。

(2) 年 譜

- 明治39年 大分県種畜場を設置、大分郡西大分町新川に仮庁舎を建設(全国5番目)
農商務省からデボン種の種雄牛2頭、豪州産雌馬28頭の貸付を受け、本県産牛馬の改良増殖開始
- 明治39年 直入郡久住村に移転
- 大正3年 改良種種雄牛を従来雑種牛に交配して本県産基礎牛形成
- 大正10年 全国畜産博覧会で「千代山」号が1等賞1席に入賞
「牛は豊後が日本一」と、豊後牛の名を全国に広める
- 大正12年 大分分場を大分市南大分に創立、養鶏部を設置
- 昭和3年 大分分場に養豚部を設置
- 昭和12年 大分分場に養兔部を設置
- 昭和14年 大分県役馬利用指導者養成所を開設
- 昭和21年 大分県役馬利用指導者養成所を廃し、大分県有畜農業指導所に改組
- 昭和24年 黒毛和種並びに馬の人工授精を開始
大分県農業講習所久住支所を併設、農業改良普及員の養成開始
- 昭和25年 大分分場を大分市高城に移転、高城分場と改称
- 昭和26年 伝書鳩による牛の精液空輸開始
- 昭和28年 大分県種畜場を大分県久住種畜場と改称
大分県有畜農業指導所を大分県久住種畜場有畜農業指導係に改組
高城分場を大分県高城種畜場に改組
- 昭和36年 黒毛和種精液の凍結試験開始
- 昭和37年 種雄牛間接検定開始
- 昭和41年 高城種畜場を大分県農業技術センター畜産部に改組



(種畜場時代の正門)



(伝書鳩による精液空輸)

- 昭和 4 4 年 大分県久住種畜場を大分県畜産試験場に改組
農林省農林水産技術会議から中核試験場の指定を受ける
- 昭和 4 5 年 県内種雄牛を大分県畜産試験場で集中管理
- 昭和 4 6 年 液状精液を凍結精液利用に全面切替
直接検定、間接検定による種雄牛選抜開始
- 昭和 4 7 年 乳用種雄牛を家畜改良事業団熊本種牛センターに移管
- 昭和 5 4 年 畜産資料館開設
- 昭和 5 9 年 受精卵移植第1号雄子牛誕生
- 昭和 6 0 年 自給飼料分析指導センター開設
- 昭和 6 1 年 畜産試験場創立80周年、功労種雄牛之碑建立
- 昭和 6 3 年 農業技術センター畜産部の酪農科及び飼料科を本場に整備統合
豊のしゃも、ぶんご合鴨作出
- 平成 元年 農業技術センター畜産部及び草地畜産開発センターから乳牛を移管
- 平成 2 年 体外受精卵移植による県内初めての子牛誕生
- 平成 4 年 第6回全国和牛能力共進会で種雄牛「糸姫号」が農林水産大臣賞受賞
豊後牛の牛像建立
- 平成 5 年 核移植卵による西日本初の子牛誕生
- 平成 8 年 バイオ研究棟新築、DNA関連研究の開始
- 平成 9 年 畜産試験場創立90周年、ふれあい牧場オープン
第7回全国和牛能力共進会で種雄牛「糸藤号」が農林水産大臣賞受賞
- 平成 1 0 年 農業技術センター畜産部が畜産試験場に編入され中小家畜部に改組
第1回大分県畜産試験場「ふれあいフェスタ'98」開催
体細胞クローン牛大分県第1号誕生
- 平成 1 2 年 糸福号顕彰記念式典、牛像建立



(糸福号の牛像)

- 平成14年 第8回全国和牛能力共進会で「寿恵福号」の産子が内閣総理大臣賞受賞
- 平成15年 産肉力検定の間接法から現場後代法に移行
- 平成16年 細断型ロールペーラによるサイレージ調製開始
- 平成17年 農林水産研究センター畜産試験場に改組、広域普及指導員を配置
- 平成18年 創立百周年記念式典、記念誌発刊
- 平成19年 試験地機能移転にともない赤川試験地を廃止
- 平成22年 農林水産研究指導センター畜産研究部に改称し、2担当4チーム制に改組
- 平成22年 ウインドレス鶏舎を建設
- 平成23年 豚凍結精液研究棟を建設
- 平成24年 新種雄牛舎を建設
- 平成24年 第10回全国和牛能力共進会で種雄牛「光星」号が農林水産大臣賞受賞
- 平成25年 単独の種雄牛チームを組織し、2担当5チームに改組



(畜産研究部 久住町)



(畜産研究部 三重町)